特集：「環境エンリッチメント」ってなあに？

動物たち「が」楽しい動物園

動物園の動物たちにとって，快適な暮らしとはどのようなものでしょうか？
「動物福祉」の考えのもと，動物の飼育環境を豊かにする試みのことを，「環境エンリッチメント」といいます。
来園者だけでなく，動物にとっても楽しい動物園にするために，京都市動物園で行っている取組の一部を御紹介します。

採食 1

採食エンリッチメント

野生の動物の暮らしは厳しく，食べ物を手に入れるのも一苦労です。一日の大半をかけて採食していることもありますし，丸一日かけても獲物がつかまらないこともあります。

飼育員が隠した骨を一心不乱になって探すアムールトラのオク。

動物園の動物には，栄養バランスのとれたエサが十分用意されます。でも，本来時間をかけて得られるはずのものが，簡単に手に入ってしまったら，それ以外の時間は「ヒマ」になってしまいます。そこで，エサを隠したり，複雑な仕組みの給餌装置を取り入れたりと，動物の特性に合わせてエサの与え方を工夫しています。

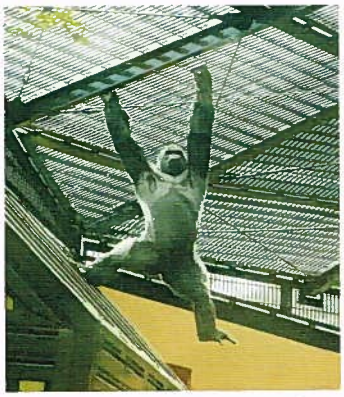
枝に刺した果物や野菜に手をのばすチンパンジーのジェームス。毎年，参加者をつのってチンパンジーの樹上の採食を再現するイベントを行っています。

食べ物を探し，食べようと試行錯誤をしている間，動物はいきいきとしています。時間はかかっても，自分で食べ物を手に入れる喜びは，なにものにもかえがたいものなのです。

空間 2

空間エンリッチメント

動物たちが本来の身体能力を発揮できるように生活の場を整えるのも，動物たちの楽しい生活のためには大切なことです。
たとえば，ニシゴリラの屋外運動場の天井は格子状で，樹上で暮らす野生ゴリラの行動を引き出せるようになっています。



体重が200kg近いモモタロウですが，軽々とぶら下がって，移動していきます。

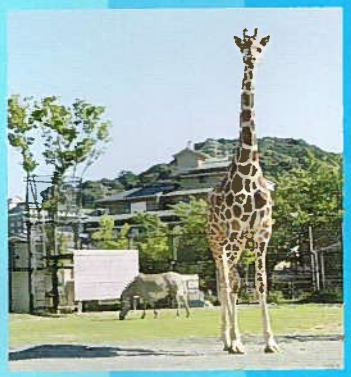
ゴリラたちは自然に体をきたえることができ，結果として健康につながります。そして来園者にとっても，ダイナミックに動き回る動物の姿を見られるのは，楽しいものです。

ハンモックなどの遊具で，登ったり飛び降りたり遊んだりできるようにするのも空間エンリッチメントの１つです。新しく設置されたハンモックに興味津々のアカゲザルのコユリコ（左）とアオイ（右）。

その他 3

その他のエンリッチメント

京都市動物園では，キリンとシマウマの混合飼育が見られます。これは本来の生態系に近い姿で，お互いの存在がよい刺激になっています。



キリンのメイと，シマウマのナナト。広いグラウンドで，適度に距離をとりながらも，仲良くしています。

動物園での生活は野生に比べると，どうしても単純で単調になりがちです。そこを，飼育員やスタッフが知恵をしぼり，動物の個性に合わせて，日々さまざまなエンリッチメントを試みています。

バクのミノリがブイをつついて中の食べ物を出しています。ケガをしないように，子どもは届かない高さにしています。このように，動物がケガをしないように配慮することも大事です。

動物園での生活を少しでも快適にし，動物たちの幸福な暮らしを実現することこそが，環境エンリッチメントの最終目標です。

今号のPick Up!

動物たちのトレーニングのお話

京都市動物園では，アジアゾウ，チンパンジー，ニシゴリラ，キリン，ツシマヤマネコなどを対象に，「ハズバンダリートレーニング」をしています。どんな目的で，どんなことをしているのでしょう。

「ハズバンダリートレーニング」とは，動物たちの健康管理に，動物たち自身が協力してくれるようにするための訓練です。芸を教えこむのとは違い，その目的は，「動物福祉」の考えに基づいた，動物の健康的な飼育にあります。検査や治療などのために，無理やりおさえつけたり，麻酔をかけたりするのは，動物にとって大きなストレスです。抵抗する動物によって，飼育員や獣医師がケガをするおそれもあります。そこで，普段から訓練をして必要な動作を覚えさせることで，動物にも人にも負担なく安全に健康管理ができるようにしています。動物たちは，棒や声などの指示で，決まった動作をするようにトレーニングをします。そのためには，彼らとの信頼関係はもちろん，科学的な知見が必要となります。ハズバンダリートレーニングは，「環境エンリッチメント」と並び，動物たちのよりよい暮らしのために，欠かせないものとなっています。

重い体重を支えるため，ゾウの足のケアはとても大切です。トレーニングにより，ケガをしても，飼育員の指示に従って，自分から消毒液に足を入れることができます。

キリンの削蹄（さくてい）トレーニング

キリンがターゲットにタッチすると，飼育員が笛を吹いて，正解だと教えます。

ごほうびをあげます。

その間に，別のスタッフが専用のハサミや，やすりでキリンのひづめを切ったり削ったりします。

トレーニングによって，麻酔をせずに，ひづめを整えることができるようになりました。

飼育員だより　種の保存展示課 伊藤二三夫

「老猿ホーム」のアカゲザルたち

ここは老猿ホームです。
ここで生活しているアカゲザルのイソコは今年で 39 歳になりました。今まではサル島でたくさんの仲間と共に暮らしてきましたが，高齢で移動が困難になり，おいしいものは他のサルたちが先に食べてしまうため残り物を食べていました。このように思うように生活ができなくなったため，老猿ホームにお引っ越ししました。長年生活していたサル島とは違い，ここはバリアフリー構造で，冷暖房も完備されています。また，同じように高齢のアサタロー，妹のビート，仲良しのゴンゴも一緒に暮らしています。みんな動きが遅く，腰も曲がって，見るからにおじいさんとおばあさんになりました。最初は新しい環境に戸惑っていましたが，少しずつ今の環境にも慣れてきました。ゆっくりと過ごして，長生きしてほしいものです。

あのね！どうして!?

Q キリンとシマウマはどうして一緒（いっしょ）にいるんですか？

A 野生（やせい）でもキリンとシマウマは一緒（いっしょ）に暮（く）らしているように，動物園（どうぶつえん）でもお互（たが）いにけんかしないようであれば，野生（やせい）と同（おな）じような状態（じょうたい）で暮（く）らしている姿（すがた）を見（み）てもらいたいからです。また一緒（いっしょ）のほうがお互（たが）いにグラウンドを広（ひろ）く使（つか）えるからです。

動物園の「御意見箱」に寄せられた，動物に関するいろいろな質問とその回答を御紹介しています。過去の回答は動物園のホームページや，「図書館カフェ」の動物園コーナー（西側の本棚）にあるファイルでも御覧いただけます。